

2021年3月期EV・ESR説明会

2021年5月25日



EVの状況

EV

(億円)

	20.3末	21.3末	増減額 (前期末比)
EV	33,242	40,262	7,019 (+ 21.1 %)
修正純資産	22,124	23,768	1,644 (+ 7.4 %)
保有契約価値	11,118	16,493	5,374 (+ 48.3 %)

新契約価値

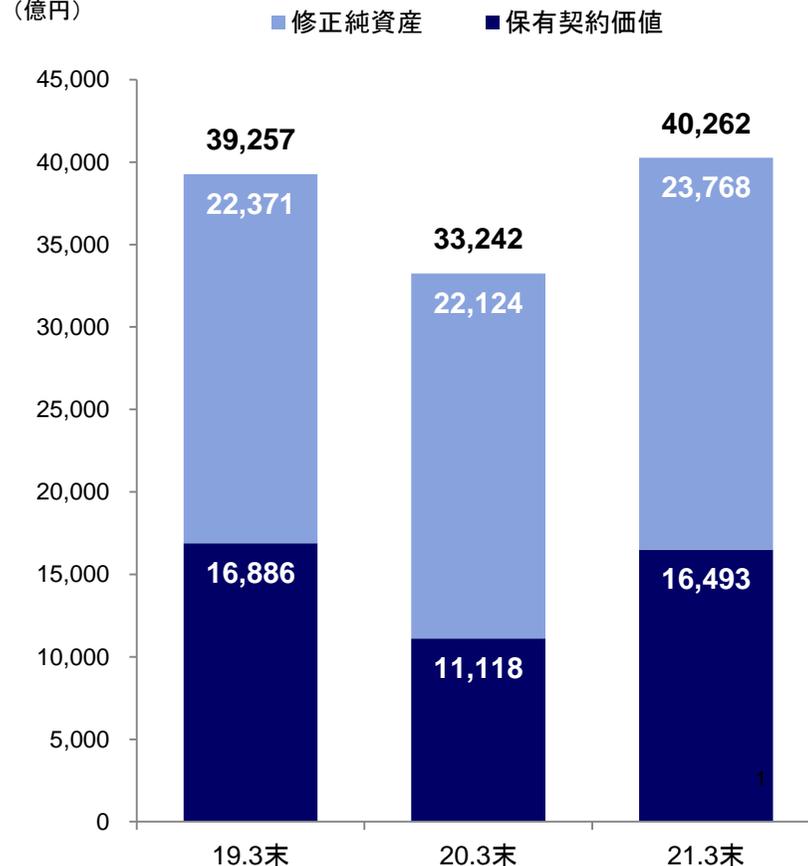
21.3期の新契約価値¹ △ 127億円
 新契約マージン^{1,2} △ 5.0 %

- 2021年3月期は積極的な営業活動を自粛していた一方、新契約獲得にはその多寡によらない一定の事業費等が必要となるため、新契約価値はマイナスになっている

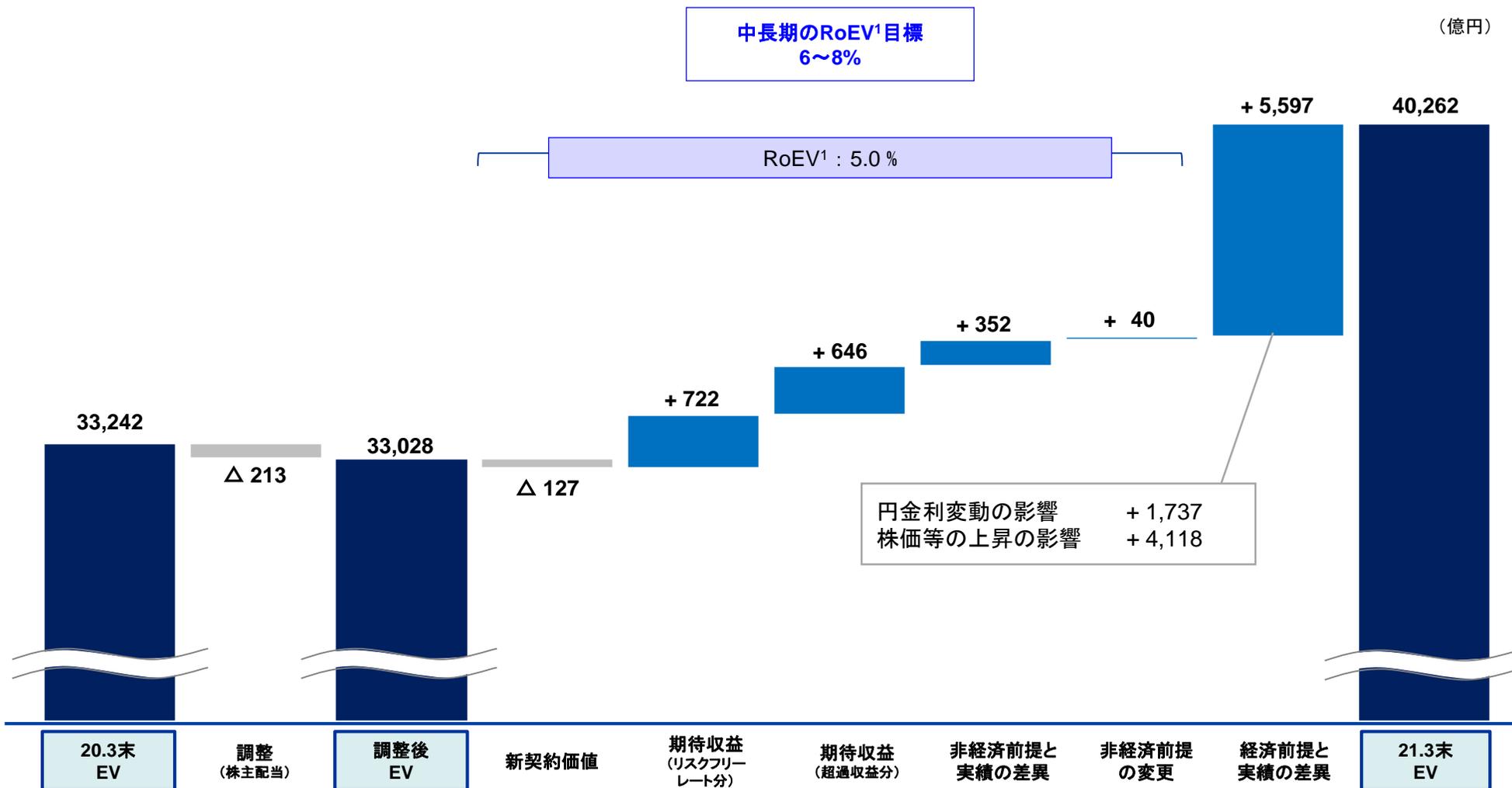
1. 2020年4月から2021年3月までの新契約をベースに2020年6月末の経済前提を使用。特約の切替加入および条件付解約による価値の増減分を含む
2. 新契約価値を将来の保険料収入の現在価値で除したもの

EVの推移

(億円)



EVの変動要因



1. EVの変動要因から「経済前提と実績の差異」を除いた値

EVの感応度分析

経済前提に関する感応度

(億円)

前提条件	EV	増減額 (増減率)
リスク・フリー・レート50bp上昇	41,117	+ 855 (+ 2.1 %)
リスク・フリー・レート50bp低下	38,529	△ 1,732 (△ 4.3 %)
リスク・フリー・レート50bp低下 (低下後の下限なし)	38,223	△ 2,038 (△ 5.1 %)
株式・不動産価値30%下落 ¹	36,178	△ 4,083 (△ 10.1 %)

非経済前提に関する感応度

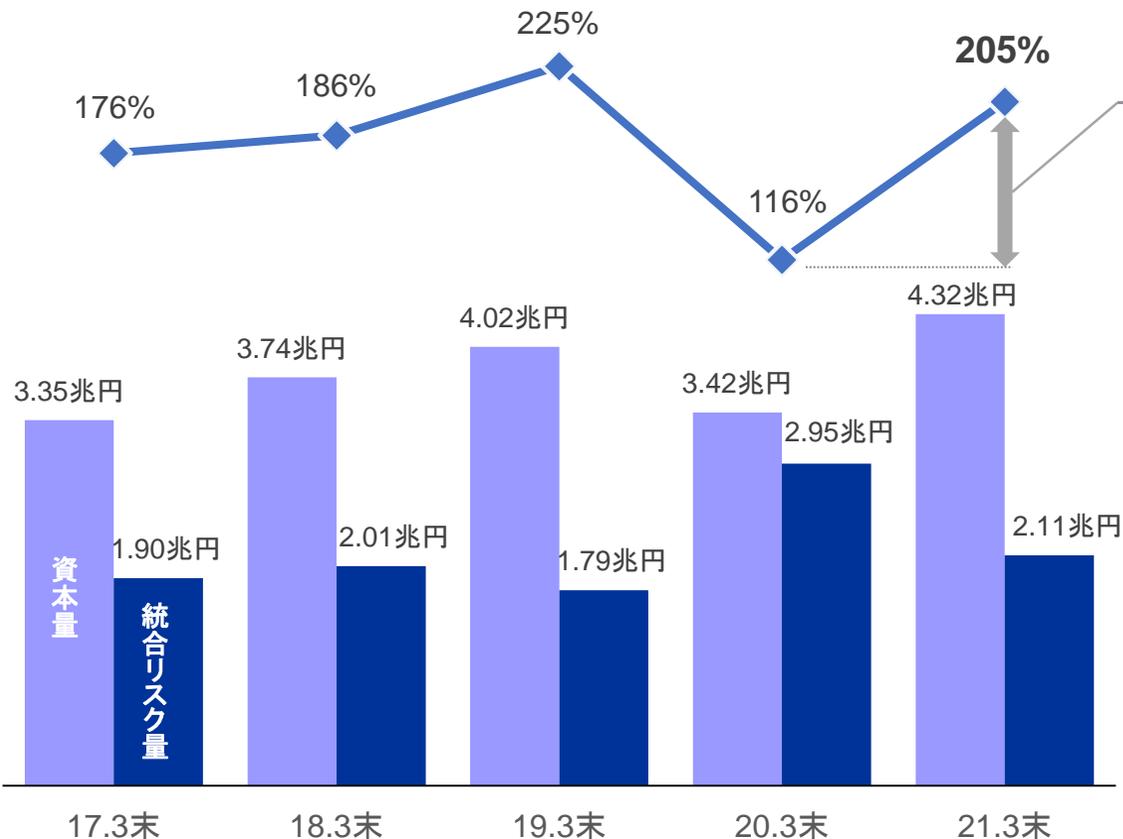
(億円)

前提条件	EV	増減額 (増減率)
将来の保有契約量が2021.3EVの計算上で想定している水準の1.05倍 ¹	40,883	+ 621 (+ 1.5 %)
事業費率 (維持費) 10%減少	42,253	+ 1,991 (+ 4.9 %)

1. 第三者の検証を受けていない試算値

ESRの状況

- 2021年3月末のESRは、市場環境の変化により資本量が増加、統合リスク量が減少し、205%に上昇した
- 中長期的にESRの安定を目指すこととしており、EVの成長・金利リスクの削減等、様々な手段を適切に講じていく



市場環境の変化 +68ポイント
 劣後社債の発行 +7ポイント
 上記以外 +14ポイント

ESR感応度(2021年3月末)

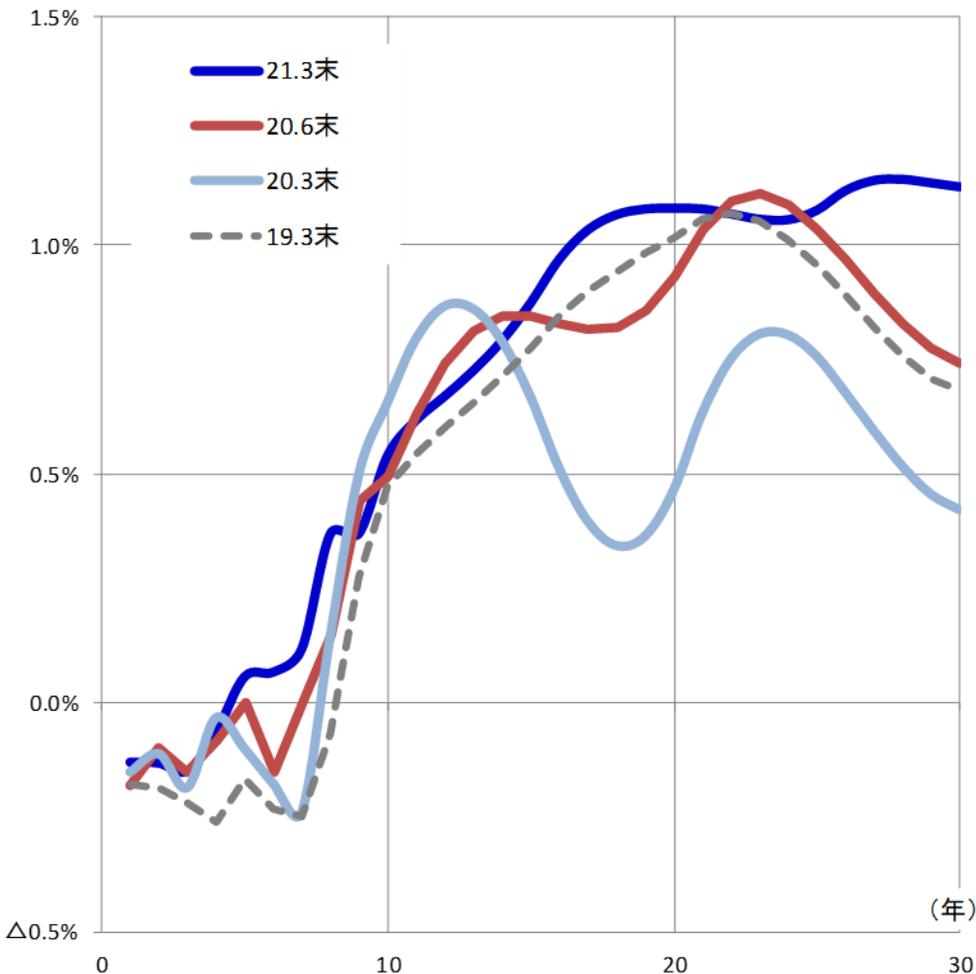
- リスク・フリー・レート 50bp上昇 +16ポイント
- リスク・フリー・レート 50bp低下 (低下後の下限なし) △31ポイント
- 株式・不動産価値 30%下落 △23ポイント
-
- 将来の保有契約量が1.05倍 +7ポイント

注: ESRの分子である資本量は、EVに当社が発行した劣後社債の額を加えて算出。
 ESRの分母である統合リスク量は、資本量の変動をリスクと捉え、内部モデル(保有期間1年、信頼水準99.5%)を用いて算出。

1. 2021年3月末EVの計算上で想定している水準

(参考) 金利 (EVの前提条件) ¹の変動

フォワード・レート (19.3-21.3)



フォワード・レートの推移

	19.3末	20.3末 ^①	20.6末 ^②	21.3末 ^③
10年	0.471 %	0.657 %	0.495 %	0.539 %
20年	1.017 %	0.466 %	0.930 %	1.080 %
30年	0.683 %	0.422 %	0.743 %	1.126 %

注: EVおよび新契約価値の計算に用いた経済前提は以下のとおり

- 2020年3月末EV : ①
- 2021年3月期の新契約価値 : ②
- 2021年3月末EV : ③

1. 金利 (EVの前提条件) は、財務省公表の国債の流通利回りを基に作成したフォワード・レートを使用